

昨夏の集中豪雨教訓に 大規模防災訓練開催



5月15日、昨年7月15日の集中豪雨での被害を受けて、平成15年度以来8年ぶりに大雨による土砂災害を想定した大規模な防災訓練を実施しました。

昨年の集中豪雨で町内の3,766世帯、約1万1000人に避難勧告や避難指示を発令しましたが、避難をしたのはわずか1.2%の139人（54世帯）でした。対策本部の初動態勢や住民への避難連絡徹底などが課題となりました。

訓練では、梅雨入り前に各機関が連携を深め、住民のみなさんに防災意識を高めてもらおうと町が主体となって実施しました。県、加茂署、可茂消防事務組合、町の災害ボランティアなどの関係者や地域住民のみなさん合わせて、765人の方に参加いただきました。午前6時に大雨警報が発令された想定でおこない、ただちに災害対策本部を設置し、避難勧告、避難指示が出された須賀、逆巻、野上上、大門西地区の住民のみなさんが各公民館に避難しました。

そのほか、八百津中学校では、消防団員による土のう積み、県の防災ヘリによる避難者救助、ボランティアのみなさんによる炊き出し、水道業者による仮設管設置作業や、地震体験や降雨体験、災害支援車などさまざまな体験展示がありました。



避難をする住民の方々



屋上から避難者を救助する県防災ヘリ



炊き出し訓練をするボランティアのみなさん